

令和8年度 一般選抜（前期日程）

小論文

試験問題

教育学専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて10ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は4ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

教育学専攻

（10枚の1）

問題1 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

親ガチャ、上司ガチャ、配属ガチャ……まあガチャガチャいろんなことが言われる。

本人ではどうしようもないことがこの世にはある。皆が皆、「選べる」ことばかりではない。それは間違いない。

そうした本人の意思では選べないこと。ゆえに、不確定で先が読めず、偶然性に専制された状況というのは、昨今、「ガチャ」ということばで一般には問題視されている。しかし私はこのガチャ問題について考える際に、見落としがちだが、勘所があるような気がしている。

「考える」とさらっと言ったとき、多くの場合は、現状の「問題」（と認識していること）から入ることが多いだろう。ここがまずもって大事だ。「問題設定」次第で、進む先は薬にも毒にもなる。

ガチャ「問題」で言うと、こういう問題設定になっていないだろうか？

先が読めないことは不安で嫌だ = 「問題」である = ならば予測可能なように決めてさしあげよう。
と。

このロジックで生まれている趨勢の一つが、「配属ガチャ」問題に相對する、「配属先確約」制度だと考える。不確実性が憎き敵ならば、「確約」は正義ということになるが、どうみるべきだろう？ 本章では「確約は正義なのか？」と題して思索を楽しんでみたい。

2024年6月の朝日新聞全国版で「こっちの企業『ガチャ』ないぞ 志向に合わせ、配属先や勤務地『確約』」との見出しが躍っていた。他紙も言い回しは違えど「配属ガチャ」をこぞって扱っていた。この採用の売り手市場を鑑みれば、企業各社がこぞって「初任配属確約採用」などの先進的取り組みを打ち出し、差別化、つまり応募者の魅力づけに精を出すのは無理もない。

しかし私はいぶかしんでいる。このような、「決まっていない」ことをただちに問題視し、それを裏返したかの「決める」（確約する）ソリューションは、手放しで喜べることなのか？

というのも、たとえばここで、メンバーシップ型雇用の利点などについての詳説は避けるが、人材の配置を「決めない」ことで守られる人材の流動性や柔軟性は、雇用者だけが得をする話とは限らない。被用者側にもあることは、「決まってしまうている」ことのリスクを想像すれば、おわかりいただけるだろう。

すべてががちがちに決まっていたら、それはそれで息苦しいものではないだろうか⁽¹⁾。
学生のうちに自身の適性に合った希望職種や配属先を「決めて」、そのとおりに事が運ぶことが、「良い」のかどうかなんてのは、誰にもわからないというものもある。

そんなふうにして、人間の揺らぎ、状況もゆく河の流れのごとく移ろうと考えれば、「確

教育学専攻

（10枚の2）

約」は、決して幸運の確約ではない気がしてくる。

はたまたもっと言うと、今後、配属確約に「資する」人物とそうでない人物とに分けられていく可能性も否めない。職場には、職務的に／勤務地的に、大人気です・花形です！とは言えない部門が必ずあるものだ。配属確約に「資する」人物にはVIP待遇的に、本人が望むものを渡すとして……誰かがやらねばならないが恐らくハタチそこその人が望みそうもない部門は、どうなるのだろうか？配属確約採用からこぼれ落ちたものを、押しつけられる、配属ガチャ採用枠。大丈夫だろうか。

つまり、この決まっていないのが嫌なら決めてあげましょう！というソリューションは、案外、「分断」のタネにもなりそうな、「分ける」しぐさなのだ。

さて、だとして、この「問題」はそもそもどう設定すべきだったのだろうか。別の角度から考えるに、私は、そもそも「ガチャ」問題の矛先というのは、不確実性そのものに対してではない、と考えている。

「決まっていない」ことが不安だとの主訴は確かにあるだろう。だがそれをそのまま受け取って、“不安はよくないですね、消えてなくなるように「決めて」あげますね！”なんて虫のいい話はない。そんな拙速な解決策ふうのものを考える前に、職場のミクロな環境と労働社会全体のマクロな環境とを行き来して、問題の根っこをつかむ必要があると考える。そうしてたどり着く仮説は、

本当のしんどさは、不確実性そのものではなく、

配置に「アタリ」「ハズレ」があっても、よりよく働けるチャンスを個人側からはなかなか創出できない点ではないか？

ということだ。

換言すると、個人が不安感でいっぱいになること。いわゆる「不運」と呼べる状況があったとして、それを組織（社会）全体の問題だと思ってもらえない苦しさ。個人の問題（それもときには、不安をやり過ごせない「心の問題」）に還流しがちな点こそが、つらくないか？と考える。もっと言えば、「うまくやれないほうが悪いよ」「能力の問題だよ」とされても、二の句が継げないことこそが、問題ではないか？と考えるのだ。

連載や著書でも繰り返し述べてきたことだが、うまく仕事を回せるときは、うまく環境にはまっているときだ。逆に言えば、相性に恵まれず、ぎくしゃくした不運な状況というもの、誰にでも起こりうる。それは個人が「優秀」かどうかなどでは、占えない、相互作用的な問題である。それなのに、関係性度外視の、個人主義的な人間観を前提にしたまま、もっと高い精度で予見しろ、「決まっていない」ことが怖いなら「決めちゃおう」というの

教育学専攻

（10枚の3）

は、迂闊というか、ちょっとした欺瞞にも思える。

だからまずもって留意しておかねばならないのは、嫌な言い方かもしれないが、「ガチャ」論というのは、不確実性をなくす方向で考えては筋悪であると考えられよう⁽²⁾。

未来が不確実なことはわかりきったファクトなのだから、策を練るならば、なんちゃって確実性を上げるかのソリューションからいかに脱するか？これこそ試行錯誤せねばならないポイントである。やっぱり問題解決の前に、問題設定って大事ですね。

配属ガチャ問題から、偶然性に委ねざるを得ない状況を忌み嫌い、見える範囲でだけ確約することで問題解決したかのふりをして、限界があるという話をしてきた。

決まっていなことを問題設定し、決めてあげましょう！なんて、マッチポンプ的問題解決だ。

そういうことではなくて、問題に本筋があるとしたら、誰かが配属でもなんでも、「ハズレ」だと言いたくなる状況を、組織や社会が見て見ぬふりすること。それが能力主義社会においては、当たり前、自己責任で、どうしようもないことだと思わせていることのほうが、よっぽど問題だ。

個人が「ハズレ」だ、と絶望しそうになったとき、必要なのは、まあエースじゃないから仕方ないよ、もっと実力あげてから言ってなんてことばではない。誰かの絶望は、組織の環境調整（誰と何をどのようにやるか？）がうまくいっていない、システムエラーだと捉えるべきだ。教育社会学を修めた組織開発者としてそう考える。

本章では「配属ガチャ」とそのなんちゃってソリューションとしての「初任配属確約」を扱ったが、ほかにも一見すると画期的に見えるものの、問題の表層をなぞったかの施策の数々が社会には有象無象にあると思う。

問題解決をしているふう、に終わっていないだろうか。根っこを捉えているだろうか。埒が明かない「問題」を今日も解いた気になっていないだろうか。そして組織や社会は、しんどさを叫ぶ個人を、見て見ぬふりし続けていないだろうか。

出典：勅使川原真衣『格差の"格"ってなんですか？：無自覚な能力主義と特権性』朝日新聞出版、2025年、69-76頁。一部改変。

教育学専攻

（10枚の4）

注

- ・ソリューション：解決策
- ・メンバーシップ型雇用：先に人材を確保し、その後に仕事を割り当てる雇用のあり方を「メンバーシップ型雇用」と呼ぶ。終身雇用を前提とする日本企業の多くは、このメンバーシップ型雇用を採用している。
- ・マッチポンプ的問題解決：問題を解決しているようでそのことによって別の新たな問題が生じてしまうような問題解決のこと。
- ・組織開発者：計画的に組織の効果を高めるための組織開発という取り組みを行う役割を担っている人。

問1 下線部（2）の『ガチャ』論というのは、不確実性をなくす方向で考えては筋悪である」のはなぜか200字以内で説明しなさい。

問2 下線部（1）で筆者は「すべてががちがちに決まっていたら、それはそれで息苦しいものではないだろうか」と言っているが、このことについて本文を参考にして、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

教育学専攻

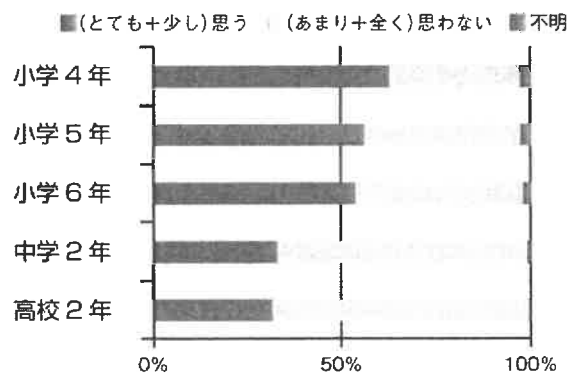
（10枚の5）

問題2 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

青年心理学において自己嫌悪感は、孤独感や劣等感と同様に、早くから青年期の代表的感情として取り上げられてきた。自己評価が低下し、自己感情が否定的なものになることは青年期の心理的特徴とされてきたからである。

「自分のことが好きか嫌い」を問う形式の調査結果に、しばしばこの否定的な特徴が現れてくる。図に示したものは、全国の小・中・高 17,900 名を対象として、「今の自分が好きだ（とても思う・少し思う・あまり思わない・全く思わない）」について回答を求めた結果（国立青少年教育振興機構, 2014）をまとめたものである。好きだと思う割合が学年の進行につれて減少し、好きだと思わない割合が増加していくことが示されている。

図 「今の自分が好きだ」に対する回答の割合



（中略）

青年期に自己嫌悪感が高まる理由は、自己を対象視できるようになること、自己への関心が高まること、理想主義的になることなどが従来より指摘されている。成人期になり、主たる関心の対象が自己から自己外に移っていくと、自己嫌悪感を感じることは少なくなるのであろう。

そして、自己嫌悪感という感情の特徴は、嫌悪する主体も嫌悪される対象も同じ自分の中にあることである。「嫌悪を向けている主体（嫌悪する主体）」も自分であると同時に、「嫌悪を向けられている対象（嫌悪される対象）」もまた自分である。したがって、自分に嫌悪を向けて感じる感情ととらえることもできるし、自分が嫌悪を向けられて感じる感情ととらえることもできる。これが、自己嫌悪感が攻撃的な強気な感情にも見え、萎縮的な弱気な感情にも見える理由である。

嫌悪される存在になることと、嫌悪する存在になることでは、どちらが辛い経験かといえば、嫌悪される側になることであろう。それゆえ、青年は嫌悪される側よりも嫌悪する側に立つことを選ぶ。自己を嫌悪することで、自分が嫌悪される存在であることを忘れ

教育学専攻

（10枚の6）

ていられる。自己を嫌悪する側に立つことは、嫌悪される側に立つことよりも受けるダメージは少ないはずである。そしておそらく、自己を嫌悪する青年は、自己を嫌悪している自分のことは肯定しているであろう。自分の現状を許さず、自己を責める厳しい自分のことは、受け入れられる。自己を肯定せずに生きることは困難である。しかし、今のこの自分を肯定することはできない。そのときに、自己を嫌悪する自分を肯定するという形で、自分の中の折り合いをつけているように思われる。

自己を嫌悪することは、一見、自然に反することのように見えるが、自己を嫌悪する自分を肯定しているのだとすれば、自己嫌悪感を抱えながら生きることは可能であろう。嫌悪されるべき自分と、嫌悪する自分とは共存できる。共存していくために、嫌悪されるべき自分については、目を向けないようにしているはずである。自己嫌悪感は自己拒絶の感情であり、自己を自己から遠ざけようとする感情である。嫌悪されている自己をしっかりと認識してしまうと、この共存は難しくなる。自分の唾液は、口に入っている間は平気である。唾を飲むこともできる。しかし、いったん外に出してしまった後で、もう一度それを口の中に入れることは無理であろう。嫌悪すべきものは、自己内にとどまっている限り見えない。嫌悪すべきものとして顕現化しなければ、共存できる。

自己嫌悪感が青年の人格形成に役立つとしたら、見ないようにごまかしていた自己の嫌悪すべき側面を見るようにすることが必要になるであろう。自己嫌悪感を感じている青年に求められるのは、嫌悪する主体である自分を直視し、自己嫌悪感によって自分を守っている自分の甘さに気づくことである。そして嫌悪される対象であった自己も自分である、と引き受けることである。ぬるま湯のような自己嫌悪感を感じ続けていても、何かが変わるとは考えにくい。必要なことは、自己を嫌悪して自己から目を反らすのではなく、自己を嫌悪する自分を肯定するのでもなく、自己を嫌悪せず自己を直視することであると結論づけたい。

出典：佐藤有耕「青年期の自己嫌悪感」『心理学ワールド』74号、2016年、17-20頁、一部改変。

<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2017/10/74-17-20.pdf>

問1 青年期に自己嫌悪感が高まる理由について、本文における筆者の主張を200字以内で説明しなさい。

問2 下線部の筆者の結論に対するあなたの意見を示した上で、青年期にあたる中高生はこのことにどのように取り組むことができると考えられるかについて400字以内で述べなさい。

7～10枚目は下書き用紙のため省略します。

令和8年度 一般選抜（前期日程）

実技検査

試験問題

美術領域専攻（美術分野）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

美術領域専攻（美術分野）

（ 1 枚の 1 ）

問題

配布されたモチーフ（スケッチブック、麻テープ）を下記の条件で配置し、鉛筆デッサンしなさい。

条件

- ・麻テープを約 1m 引き出したうえで、スケッチブック上に配置すること。

[注]

- 1) 画用紙の縦横は自由とする。
- 2) 実技検査受験番号シールを画面右下に貼ること。

令和八年度 前期日程

実技検査

試験問題

美術領域専攻（書道分野）

注意事項

一. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。

二. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。

三. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

美術領域専攻（書道分野）

（4枚の1）

一 次の文章を半紙に収まりよく書きなさい。漢字とかなの変換は不可とし、句読点は省略すること。（半紙タテ）

文字は本来、形と線によって構成されているものだが、表現をその何れかに傾斜させて運用するのは、書者の個性が決定する。

（青山杉雨『文字性霊』二玄社）

二 図版Aのうち「多寶佛塔感應」の六文字を半紙に臨書しなさい。（半紙タテ）

三 図版Bを半紙に収まりよく臨書しなさい。（半紙タテ）

四 図版Cを半切に二行で臨書しなさい。（半切タテ）

五 図版Dを半切に二行で臨書しなさい。（半切タテ）

美術領域専攻（書道分野）

（4枚の2）

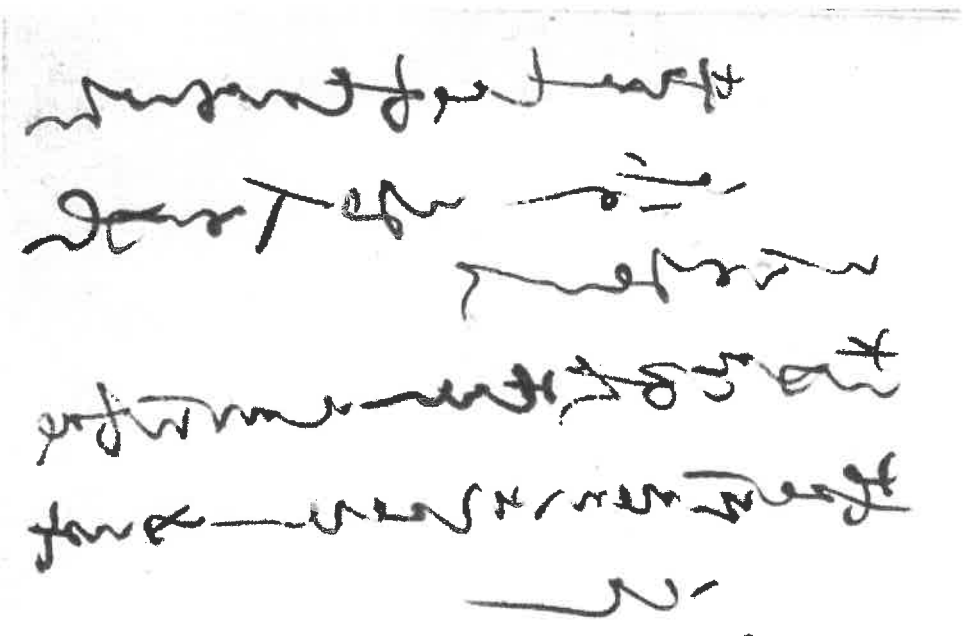
図版 A



大唐西京千福寺多寶佛／塔感應碑文。／南陽岑勛撰。朝議郎／判尚書武部員外郎琅／
『多宝塔碑』唐 顏真卿（書の宇宙 13 一玄社）

美術領域専攻（書道分野）

（4枚の3）



図版 B

かへし
おきつ能三志支
なみしきるしもこそ所
お旅もほ本ゆれあるうみにやな#
むとすらむ无
た多
たれとしらず、人とももの
た堂
たまふにや利じをたてゝ

『一条摂政集 伝西行筆』（日本名筆選 41 二玄社）

美術領域専攻 (書道分野)

(4 枚の 4)

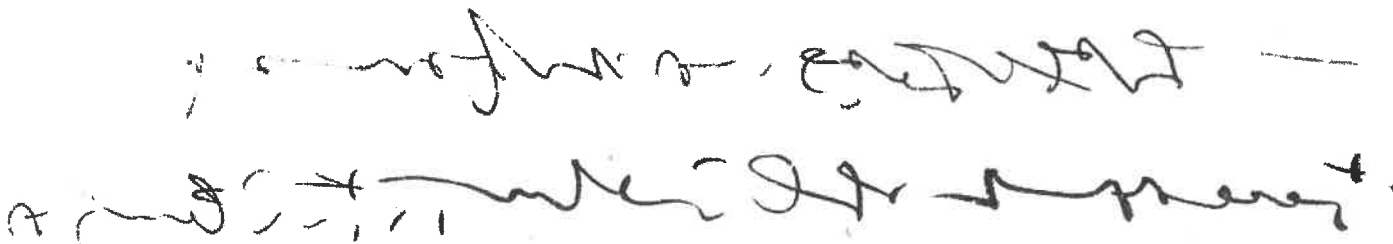
図版 C



義之頓首。喪亂之極。／先墓再離茶毒。

『喪乱帖 王羲之』(書の字宙 6 二玄社)

図版 D



なにしてみのいたづらにおいぬらんとしのおもはむことぞやさしき
支 那 無 能

『高野切第三種 伝紀貫之筆』(日本名筆選 5 二玄社)

令和8年度 一般選抜（前期日程）

実技検査 ＜楽典＞

試験問題

音楽領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

音楽領域専攻

（ 2 枚の 1 ）

- 1 次の音程を答えなさい。（ただし複音程は単音程になおして答えなさい。）

(1) Treble clef, C4 to C4.
(2) Bass clef, C3 to C#3.
(3) Treble clef, C4 to B3.
(4) Bass clef, C3 to B2.
(5) Bass clef, B2 to A2.
(6) Bass clef, B2 to A2.
(7) Bass clef, C3 to B2.
(8) Bass clef, C3 to C#3.
(9) Treble clef, B3 to A3.
(10) Bass clef, B2 to A2.
(11) Treble clef, B3 to A3.
(12) Treble clef, B3 to A3.

- 2 指示された音階を（１）（２）は調号を用いて、（３）（４）（５）（６）は臨時記号を用いてつくりなさい。（ただし短調は旋律短音階上行形で答えなさい。）

- （１） F・dur の属調の平行調を下属調とする調
- （２） fis・moll の平行調の下属調を同主調とする調
- （３） D・dur の同主調を平行調とする調
- （４） 嬰へ音より開始する沖縄音階
- （５） 日本の音階のうち、ロ音より開始する民謡音階
- （６） ハ音より開始する都節音階

- 3 調名を日本語で答えなさい。

- （１） Ges・dur の第Ⅳ音の異名同音を導音とする長調
- （２） d・moll の旋律的短音階上行形第Ⅵ音を第Ⅲ音とする短調
- （３） F・dur のⅦの和音をⅡの和音とする調
- （４） e・moll のⅥの和音をⅣの和音とする調

音楽領域専攻

（ 2 枚の 2 ）

4 次の楽語の意味を答えなさい。

- (1) alla breve
- (2) cantando
- (3) m.d.
- (4) a battuta
- (5) nobilmente
- (6) pomposo

5 譜例にある和音の中から以下に該当するものを全て選び、その数字を記しなさい。

- (1) ～ (3) はいずれの転回形であっても合致するものを記入すること。
- (4) はいずれの和音であっても合致するものを記入すること。

- (1) 属七の和音
- (2) 減七の和音
- (3) 短三和音
- (4) 第一転回形の和音

The musical score is written for piano in 2/2 time with a key signature of two sharps (F# and C#). It consists of 11 measures, each containing a single chord. The chords are numbered 1 through 11 above the staff. Measure 7 contains a whole rest. Measure 11 ends with a fermata. The chords are: 1. D major (F#4, C#5, G5), 2. D major (F#4, C#5, G5), 3. D major (F#4, C#5, G5), 4. D major (F#4, C#5, G5), 5. D major (F#4, C#5, G5), 6. D major (F#4, C#5, G5), 7. Whole rest, 8. D major (F#4, C#5, G5), 9. D major (F#4, C#5, G5), 10. D major (F#4, C#5, G5), 11. D major (F#4, C#5, G5).

令和8年度 一般選抜（前期日程）

小論文

試験問題

体育領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて3ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は2ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

体育領域専攻

（3枚の1）

問い

近年、生涯スポーツの役割が大きくなっていますが、生涯にわたるスポーツの継続にはスポーツへの多様な関わり方が重要とされています。そこで、スポーツへの多様な関わり方の例を説明し、それらの関わり方を学ぶことのできる保健体育の授業の内容や学習活動について、小学校・中学校・高等学校のいずれかの段階を選択して、あなたの考えを800字以内で論じなさい。

2～3枚目は下書き用紙のため省略します。

実技検査概要（体育領域専攻）

（１）器械運動（マット運動）

- ・倒立前転
- ・開脚前転
- ・伸膝後転
- ・ロンダート
- ・跳び前転

（２）陸上運動（ハードル走）

- ・50m ハードル走

（３）ボール運動

①共通課題：ハンドボール投げ

- ・男子 30m、女子 20m の距離でターゲットに対してボールを正確かつ力強く投げる。

②以下から２種目を選択

※バレーボール

- ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、２タッチパス
- ・スパイク

※サッカー

- ・ボールリフティング
- ・ロングキック

※バスケットボール

- ・ドリブルからシュート
- ・フリースロー